

令和元年11月発行
発行/日置市産業建設部農地整備課

- トピック
○生き物調査
○7月豪雨災害

○生き物調査

「虫いないねー。魚もない！」
そんな声がちやほや聞かれたのは、七月二十八日(日)に東市来町元養母で行われた生き物調査で的一幕です。

生き物調査は、毎年、養母の郷づくり委員会が子どもたちのために実施している取り組みの一つです。田んぼや川で虫や魚を採取し持ち帰った虫や魚を研究します。今年も地域の小学生十六名、中学生三名の参加がありました。(小学生は保護者の方の参加が必要です。)

さて、なぜ川や田んぼに虫や魚が少なかつたのでしょうか。地域の方々には、前日に行った航空防除を疑いましたが、講師の塚田先生は、生き物調査の前に降った大雨の影響を原因と予想し「魚がいなのは川の形が変わり、魚が潜める場所がなくなつたから。魚は、草が生えていて流れの弱い、住みやすい場所に移動したんだよ。」と教えてくれました。また、こういった現象について「自然にはよくあることだよ。自然は変わることで当たり前だから。みんなが大きくなるのと同じ。自然の流れだよ。」と話してくれました。



【活動写真①川のペーパー調査】



【活動写真②川を散策する様子】



【活動写真③塚田先生のお話の様子】

また、塚田先生は一つの虫に注目し「田んぼにいるはずのない虫がいるなあ。」と子どもたちに疑問を投げかけました。すると、子どもたちから「用水路で取つたんだよ。」と自慢げな声が返つてきました。先生は、大きく納得し「ヤゴの中でもオニヤンマのヤゴ(幼虫)は少し泥がかかったような水路にいる。ほら、目玉がギョロロと飛び出ているでしょ。目玉だけを泥から出して獲物を狙う「待ち伏せ型」の狩りをするから、泥に紛れるように、体には毛がたくさんついている。」と話すと、子どもたちは、真剣に話に聞き入っていました。

虫はいろいろなことを
教えてくれる

塚田先生は、虫や魚の動向からその土地の自然環境を把握します。「僕はこの地域に住んでいないし、直接様子を見たわけではないけど、この地域の田んぼにいつ水を張つたのか分かる。」と言います。一匹のトンボを見せ「このトンボは田んぼに入れる時期に飛んでくる。偶然が重なつたかとも思うけど、五百匹産まれて一匹しか成虫にならない。田んぼをながごししてもその下に埋まつているんだよ。」と教えてくれました。

最後に先生から「自然が分かるようになる人間にいいものが分かつてくる。」と習い、今年の生き物調査も無事終了しました。

【楓蔦黄(もみじつたきばむ)】
七十二候の第五十四候。紅葉が紅葉する時期です。日本中が錦秋に染まっていく季節です。

○七月豪雨災害について

令和元年六月二十六日から七月四日にかけて県内で発生した豪雨により、日置市では多くの農地・農業用施設が大きな被害をうけました。市内全域で大きな被害をうけましたが、特に大里川の上流に位置する田代地区や梅木地区、また、野田川流域の野田地区、桑畑地区、上神殿地区では、農地への土砂流出や用排水路の破損など大きな被害を受けました。

また、日吉地域や吹上地域では、局所的な大雨が降り、被災件数はその他の地域に比べて少ないものの、農道やため池などの農業用施設が大きな被害を受けました。

補助災害申請をした件数は左記表のとおりです。

地域	補助災害申請箇所 (※被災額40万円以上)		
	農地(田・畑)	農業用施設	合計
東市来	39か所	24か所	63か所
伊集院	57か所	36か所	93か所
日吉	20か所	18か所	38か所
吹上	18か所	8か所	26か所
全体	134か所	86か所	220か所